

氏名 河 野 達 郎 街づくり写真家 1954年 愛媛県松山市生まれ、大洲市在住 所属 日本風景写真家協会会員 SONY Imaging PRO SUPPORT member 河野達郎街づくり写真事務所 代表 株式会社スタリオン 代表取締役

1998年からスタートした大洲市の第一期観光まちづくりをプロデュース。肱川を中心に撮影した写真を情報発信素材として活用し、当時は観光地として無名だ

った愛媛県大洲市を約20年かけて人気の観光地へと押し上げ、創出した集客基盤なとの全てを2019年3月末に一般社団法人キタ・マネジメントへ承継して退任、フリーの写真家に転身した。

出生時の大人の事情で当時の里子制度によりバリバリの軍人上がりの養父と優しい養母に出会い育つ。人生の師は元法華寺住職の故・土居孝顕大和尚。仕事の師は元大洲商工会議所会頭の故・井関和彦氏。写真撮影に向かう姿勢は写真家の故・川本征紀氏の影響を強く受けている。

2021年には、撮影した写真を使って仕上げた大洲観光ポスター(4 枚組/制作: 佐川印刷株式会社)が第 40 回愛媛広告賞において、印刷広告部門で最優秀賞を受賞。また、2023年 4 月から 2025年 3 月までの 2 年間、伊方町からの依頼で撮影した佐田岬半島においては、数少ない「海士」が佐田岬燈台沖南西 650m の荒れ狂う「黄金碆(おうごんばえ)」に素潜りする様子を船上から撮影。過去例のない撮影に成功(初撮影)したこともあり 2025年 3 月 20 日から 5 月 6 日まで佐田岬半島ミュージアムにおいて開催された企画展「佐田岬ドラマー黄金碆に生きる」では、人口 7,570人(2025年 7 月 31 日現在)の伊方町にあって写真展期間中の総来展者数が 3,009 人を記録するという驚きの結果から、このことをきっかけに様々な動きが出始めるなど地域創生撮影の典型として各方面から評価されている。

- ■撮影テーマ 『写真は語る、その瞬間の物語』 あの時、ボクが観た景色を百年先のみんなに伝えたい。
- ■専門分野 『地域創生撮影と地域情報受発信』 撮影した写真を情報素材化し SNS をプラットホームに情報受発信
- ■写真を担当した主な書籍発行誌など 水郷の数寄屋臥龍山荘・肱川あらし・黎明の禅寺如法寺・大洲城下物語/発行大洲市 大洲市公式カレンダー 2022 年版から担当し現在も担当継続、 松山商工会議所会議室壁面写真(松山市全景=4.8×2.4m/2023 年)担当

2016年11月に伍代夏子さんの「肱川あらし」発売に向けたプロモーションビデオ撮影でスチール担当

他、業界専門誌、雑誌、カレンダーなど多数掲載

■近年の表彰及び撮影活動実績

第40回愛媛広告賞 最優秀賞受賞 (大洲市観光ポスター) / 愛媛広告協会 愛媛県 (愛媛県観光物産協会)、

大洲市 (企画情報・大洲市観光総合宣伝事業推進協議会)、

石畳つなぐプロジェクト、

伊方町、

他県内外自治体関係機関及び制作会社等

■執筆関係

愛媛新聞旅行「愛媛ツウのオススメスポット」 毎月1日配信 愛媛新聞旅行公式サイトトップページのテンプレートからリンク ツーリズムメディアサービス 毎月10日頃配信

現職時代のツアービジネス仲間が立ち上げた情報発信サイト

https://tms-media.jp/posts/65499/

※在京出版社により「仮称:臥龍山荘-自然と調和する数寄屋の建築」出版計画進行中

■個展開催 2022年 1月 第3回新春写真展(おおず赤煉瓦館)「甦る」

7月 「写真は語る」 ソニーストア大阪 α GALLERY 展

10月 「写真は語る」 萬翠荘百周年記念

2023年 1月 第2回新春写真展(おおず赤煉瓦館)「山河の軌跡」

11月 「写真は語る」 ソニーストア大阪 α GALLERY 展

2024年 1月 第3回新春写真展(おおず赤煉瓦館)「時代の軌跡」

2025年 1月 第4回新春写真展(おおず赤煉瓦館)「時代の軌跡」

2025年 5月 「黄金碆に生きる」河野達郎写真展

伊方町からの受託撮影業務の仕上げとして佐田岬半島ミュージアムで3月20日から5月6日まで開催された写真展。期間中来展者が3000人を超えて大きな話題となる。

7月 第2回萬翠荘写真展「あの時ボクが観た景色」

予定 $10月 ソニーストア大阪 <math>\alpha$ GALLERY 「あの時ボクが観た景色」

予定 2026年 1月 第5回新春写真展(おおず赤煉瓦館)

予定 7月 第3回萬翠荘写真展

■活動サポート SAKAWA_Digital_Printing (佐川印刷株式会社/本社松山市)